未来に向かって伸びる鶴嶺の子

鶴小だより 2月号

茅ヶ崎市立鶴嶺小学校
校長　日高　大司郎
令和５年１月３１日発行

「学力・学習状況調査」の結果について

令和４年度の学力・学習状況調査は、令和４年４月１９日（木）に行われました。今回は、その結果についてお話ししたいと思います。

まず、「学力・学習状況調査」とは、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図ることと、学校における児童生徒への教科指導の充実や学習状況の改善等に役立てるという、大きく二つの目的でなされています。

調査の項目は、教科に関する調査として、例年は、「国語」と「算数」の２教科について、年度によっては、理科も加えて行われます。そして、質問紙調査として、「基本的生活習慣」、「自己有用感」、「学習習慣」等について子どもたちに問うています。

結果は、国語・算数・理科ともに、全国平均、神奈川平均とほぼ同値となりました。それでは、教科毎にみていきましょう。

《教科に関する調査より》

国語では、「読むこと」（思考力・判断力・表現力等）の内容にあたる〈登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述をもとに捉える〉〈登場人物の相互関係について、描写をもとに捉える〉の設問について、高い正答率となりました。

その一方、「書くこと」（思考力・判断力・表現力等）の内容にあたる〈文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つける〉については、課題が見られました。

→自分の文章のよさについて、低中高それぞれが目指すべき「よさ」について十分理解させるとともに、互いに伝え合う経験を大切にしていきたいと考えます。

算数では、「図形」の領域（知識及び技能）の内容にあたる〈図形を構成する要素に着目して、長方形の意味や性質、構成の仕方についての理解〉や「数と計算・データの活用」の領域（知識及び技能）の内容にあたる〈表の意味を理解し、全体と部分の関係に着目して、ある項目にあたる数を求める〉の問いで、力を発揮することができました。

しかし、「変化と関係」の領域（知識及び技能）の内容についての〈示された場面のように、数量が変わっても割合は変わらないことを理解している〉の問いでは、低い正答率となりました。指導要領の領域毎の正答率を比較すると、この「変化と関係」の領域の力が十分でないことも分かりました。

→日常の具体的な場面に対応させながら、割合について理解できるように工夫していきます。

理科では、「生命」の領域（思考・判断・表現）にあたる〈問題をかいけつするために必要な観察の視点を基に、問題を解決するまでの筋道を構想し、自分の考えをもつことができる〉についての設問で、正答率がとても高かったです。

「エネルギー」の領域（知識及び技能）の内容〈日光は直進することを理解している〉の問いでは、低い正答率となりました。

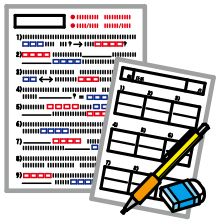
→習得した知識を実際の自然の事物・現象と関連付けて説明するような機会を設けるようにしていきます。

《質問紙調査より》

まず、生活習慣等についてでは、「朝食を毎日食べますか」の問いに、９０％近くの児童が食べていると回答しました。保護者の皆様の取り組みに感謝いたします。一方、「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」の問いでは、３５％の児童がしていると答えています。どちらかと言えばしていると合わせると８０％近くになりますが、保護者の皆さんと子どもたちとで、改めて一緒に考えていただきたい部分だなと思いました。

次に、子どもたちの自己有用感や規範意識等についての質問では、「自分にはよいところがあると思いますか」の問いに、約３８％の児童があてはまると回答し、約４２％は、どちらかといえばあてはまるとしています。この４２％の子どもたちが、あてはまると言えるよう、自信を育みたいと感じました。「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の問いでは、約８０％の児童があてはまると答え、素晴らしいなと思いました。

最後に、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組についての質問です。「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。」の問いでは、肯定的に回答している児童は、約７４％です。この数字を多いとは捉えません。



今まで以上に主体的・対話的な授業を充実するよう、職員一同取り組みたいと考えます。